

# 島新報

島新報社 発行所 島新報社  
社址 島新報社 電話 二二二  
代印 島新報社 電話 二二二  
（電話一五五）

## 江名の湯屋新設

### 問題こぼれる

江名町大字江名、石川吉澤定次が少し後れて来た松氏は同町北町に湯屋を月上旬頃完成の見込である新設すべく出願中であるが敷地三千六百坪建坪二百七坪現存する龜之湯天神湯から十坪、現在本校生徒三百七坪は規定の直線、距離三百五十坪は走能、下矢田、米十米なく、公益上必要な田久保の四ヶ所の寺にわかばこの限りでない旨の除外れて授業を受けてゐる。例を力に某縣議を頼んで連校庭には奉安殿を新築し、動中

## 主人の子供に虐られ 家出の奉公人

### 汽車乗越にて発見さる

現在大字江名の人口五千、うち風呂を立ててゐるのは四六軒にすぎないのである。一軒位は湯湯が出来ても支ないと思つてゐる向もある。千葉縣東葛飾郡柏町字四委は幼にして奉公勤きに出入り三浦利助方雇人及川富太未だ親の行先が判然せな郎(四)は昭和六年十一月十一と云ふ哀れな孤兒である。七より三浦方奉公主人の平署員も同情をよせて子供に悪口云はれかつかつて居る。

## 鹿島小學校 完成近し

村費一千九百圓を投じて断家出し柏野より隣接我孫子の長谷川誠一氏が請負つて去る一月下旬から起工し發見せられ平澤に下車せしは一日三十圓の漁しかな天長節には竣工式を挙げる

六月十五日からの漁業禁止の期を待たず船を休めようとする計畫してゐる漁業者もある

## 平署の定期總會

平署警察署では五月五日に午後一時より平署警察署内に定期總會を催し協議後殉職の警察官及故会員の慰霊祭を執行する筈

## 理髮組合役員

協 議 平署管内理髮組合役員會は二十日平署會議室で開き規則改正理髮試験受験に就て協議した

## 入山の貯金泥棒

御用!! 昨二十二日湯本町入山八仙住居和郷惣太郎(三)は友達小野明正(三)君が外出を見計ひ小野君が血と汗で貯蓄した百圓余の貯金通帳と印鑑を盗み五拾圓拂戻をなし遊樂費に費消した事を發覺し同君の届出により平署にて引致取調中

## 底引船の漁獲

著るしく減少 例年のことではあるが、深まるに連れて各漁の漁獲高は次第に減じ、現在で中之作港の船引場は今度住宅地となることになり、既に埋立工事は初まつてゐる

## 長屋全部移轉

中之作港の船引場は今度住宅地となることになり、既に埋立工事は初まつてゐる

## 鶏舎争ひから 人妻を殴る

江名町江名字南町五八指物職比佐民之助(三)は同長屋の漁夫坂本庄藏(三)に殴られたと廿二日警察に訴へられた

## 公人私人

江名町大字中之作、吉田正雄氏は背腫で臥床中だが今度帝大病院に入院した

## 苗代造り

初まる 農繁期の先觸れ苗代造りが始まつて昨日今日の農家は目の廻るような忙しさ、それでもこの春は降雨が多かつたので水不足で毎年大騒ぎする江名町永崎、神白地方も水には困らずホクホクで働いてゐる

## 女給哀話

雨のビシヨク降るある夜更け、體重二十四貫で有名中之作某カフエのタカちゃん(三)道をしよびいれて来た妹女給のアサ子(二)をいきなり店の中へ突きお

## 豆ニュース

折戸海堤立は今設計中五月一日から工事に着手するが豫定坪數一萬二千坪

中之作(十商店調査) 大平目 五十貫 二十四 中平目 百 十八 中平目 二百 十三 中平目 二百五十 十一 中平目 三百 九 中平目 三百五十 九 中平目 四百 九 中平目 四百五十 九 中平目 五百 九 中平目 五百五十 九 中平目 六百 九 中平目 六百五十 九 中平目 七百 九 中平目 七百五十 九 中平目 八百 九 中平目 八百五十 九 中平目 九百 九 中平目 九百五十 九 中平目 一千 九 中平目 一千五百 九 中平目 二千 九 中平目 二千五百 九 中平目 三千 九 中平目 三千五百 九 中平目 四千 九 中平目 四千五百 九 中平目 五千 九 中平目 五千五百 九 中平目 六千 九 中平目 六千五百 九 中平目 七千 九 中平目 七千五百 九 中平目 八千 九 中平目 八千五百 九 中平目 九千 九 中平目 九千五百 九 中平目 一万 九

## 漁だより

小名濱(魚市場調査) 魚名 漁獲高 單 價 平目 五十二 二一 二四 五十一 二一 二四 五十二 二一 二四 五十三 二一 二四 五十四 二一 二四 五十五 二一 二四 五十六 二一 二四 五十七 二一 二四 五十八 二一 二四 五十九 二一 二四 六十 二一 二四 六十一 二一 二四 六十二 二一 二四 六十三 二一 二四 六十四 二一 二四 六十五 二一 二四 六十六 二一 二四 六十七 二一 二四 六十八 二一 二四 六十九 二一 二四 七十 二一 二四 七十一 二一 二四 七十二 二一 二四 七十三 二一 二四 七十四 二一 二四 七十五 二一 二四 七十六 二一 二四 七十七 二一 二四 七十八 二一 二四 七十九 二一 二四 八十 二一 二四 八十一 二一 二四 八十二 二一 二四 八十三 二一 二四 八十四 二一 二四 八十五 二一 二四 八十六 二一 二四 八十七 二一 二四 八十八 二一 二四 八十九 二一 二四 九十 二一 二四 九十一 二一 二四 九十二 二一 二四 九十三 二一 二四 九十四 二一 二四 九十五 二一 二四 九十六 二一 二四 九十七 二一 二四 九十八 二一 二四 九十九 二一 二四 一百 二一 二四

## 天気豫報

今晩は北西の風晴夕立の模様が見えます。明日は南東の風晴夕立模様が見えます。

## 廣告の多い

常磐新聞へ



編輯  
つれづれ  
一覽して校正の不備を痛感する。充分の注意を拂ふ様に折角する。  
紙上に載せたい産業関係の統計があつたら社まで通知してもらひたい。讀者に有益な記事のせる事が本社製造家からよく聞く所である。確安石灰窒素等の化学肥料が肥料界を席捲して居る今日、魚肥製造界の前途は暗い、製造家の深甚な關心と對策を求めてやまぬ。  
地方人士の有力な投稿機關となる事は本社の目的の發表から初まる。思ふて云はざるは腹ふくるゝわざと古人も云つてゐる。  
花も今が盛りだ。やがて散りそめる事だらう。  
時は春れ行く春よりぞ  
まだ短きは……  
と歌つた詩人の心も想はれて一脈の哀れを感じる。  
×××  
共同作業場設立の記事が時々見えるが之は農村工業化の第一歩で、農家の前途は漸次明るい展望を示して來て居る。農村不況に次で來るものは漁村の不況であるまいかと思はれる。私達は十二分に對策を考究すべき

である。共同水産加工所なども考へられる一案だが今熱心に調査中であるから水産関係有志の意見も總合して地方振興の爲に諸君の策を講ずべく考へてゐる。七濱漁業関係者の意見を聴かせてもらひたい。特に若い人達の意見を待つ。  
×××  
「三年前には粕だけで元が取れぬはまるもうけの時があつたのだが」とは魚肥製造家からよく聞く所である。確安石灰窒素等の化学肥料が肥料界を席捲して居る今日、魚肥製造界の前途は暗い、製造家の深甚な關心と對策を求めてやまぬ。  
地方人士の有力な投稿機關となる事は本社の目的の發表から初まる。思ふて云はざるは腹ふくるゝわざと古人も云つてゐる。  
花も今が盛りだ。やがて散りそめる事だらう。  
時は春れ行く春よりぞ  
まだ短きは……  
と歌つた詩人の心も想はれて一脈の哀れを感じる。  
×××

募集  
編輯部 一名  
營業部 二名  
編輯部員は活動的な青年を希望し營業部員は中年者を希望する。希望者は手紙にて過去の経歴を書き送り下さい。面會日通告す。  
常磐新聞社

募集  
編輯部 一名  
營業部 二名  
編輯部員は活動的な青年を希望し營業部員は中年者を希望する。希望者は手紙にて過去の経歴を書き送り下さい。面會日通告す。  
常磐新聞社

商品豊富を店  
江尻呉服店  
商號 西 村 屋  
通稱 タイ モ ン  
小名濱町横町  
電話二十四番

良品賣に勝る商略なし  
磐城セメント  
屋問物金  
大釜屋商店  
磐城平町五丁目  
電話九番九九番  
東京磐城貯金口座一〇九五六

宮津醫院  
内科 外科  
耳鼻咽喉科  
小名濱 電一四二番

樋口呉服店  
小名濱町中島通り

内山時計店  
各種時計各種  
指輪、眼鏡、蓄音器、ラヂオ  
附品一式  
修理、正、迅  
小名濱町中島通り  
電話四十九番

清世界  
……は酒銘  
店本屋水清 元寶發  
電話三三番

白石藥舖  
クスリと御相談は  
家庭醫療の親切の店  
小名濱町中島通り 電話三三番

快鼻湯  
保有效  
著膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症、頭痛、肥厚性鼻炎に靈効あり、鼻汁多加症、神効ありと賞賛されて居ります。  
快鼻湯製造發賣元  
磐城國小町一丁目  
責任製劑者藥劑師 水野清一

久保田醫院  
内科、小兒科  
婦人科、花柳病科  
小名濱町 電話二二番

平川醫院  
内科・外科  
小兒科  
花柳病科  
江名町 電話二六

中村醫院  
内科、小兒科  
外科、花柳病科  
レントゲン科  
▲病室の設備あり  
小名濱町 電話一八番

木田醫院  
齒科 一般  
口腔 外科  
小名濱町電話一〇五番

池部科齒醫院  
齒科 一般  
口腔 外科  
江名町

會田醫院  
内科 外科  
花柳病科  
小兒科  
院長 會田 亮  
小名濱町上横町